

吉原



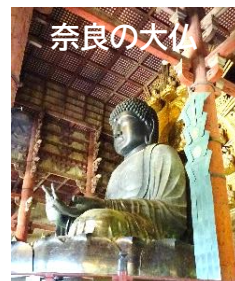
舞鶴市立吉原小学校
学校だより
6月号
令和5年5月31日

日頃の生活で学ぶもの・・・



学校の軒下にいるツバメ

木々の緑が日ごとに色を深める中、今年は、平年よりも一週間ほど早い梅雨入りの発表がありました。降雨の中でも、毎日元気に登校する児童の声や姿から、子どもたちの日々の成長を感じています。児童会で1年生と仲良くしようと業間休みに一緒に遊んだり、全員遊びをしたりしているとき、上級生が下級生を思いやる姿を目にすることが多く、心が温かくなることがあります。人を思いやることを、子どもたちは当たり前のことだと思っているようですが、これは、友達や先生、家族や地域の方など、様々な人たちとの関わりの中で、身につけてきた人間としての魅力だと私は感じています。このように心豊かな児童の育成を今後も目指し指導を続けていきます。



奈良の大仏

5月は、連休明けに実施した修学旅行や先日行った仲良し遠足、また、各学年の地域での学習などを好天のもと行うことができました。地域の学習では、吉原地域を一緒に回り分かりやすく説明していただいたり、水無月神社にある、文化財に指定された絵馬を直接見せていただいたりして、探求的な学習を進めることができます。これも、地域の皆様の本校の教育活動へのご理解とご協力の賜物と感謝申し上げます。引き続きご協力いただきますようお願いいたします。

さて6月は、舞鶴市いじめ対策強化月間の取組を実施します。アンケートの実施や一人一人との面談等で実態把握を行い、また各学年で、発達段階に応じた内容で人権学習に取り組みます。一人一人の違いを認め合い、友達の気持ちを想像し、共感することによって自分の見方・考え方を広げて友達とともにがんばる吉原っ子に育てて欲しいと願っています。いじめの未然防止のためには、一人一人の自己肯定感・自尊感情を高めることが重要であると言われていています。明日（6月1日）の全校朝礼で、子どもたちに、「優しい言葉をかけると相手からも優しい言葉が返ってくる。言葉は心の鏡です」また、「みんなそれぞれ良いところがあり、一人一人が特別な存在であること。そして、一人一人の違いをお互いに認め合えることが、大切である」と話をしようと考えています。自分も他人も『みんなちがって、みんないい。』と認め合える気持ちがあれば、いじめにつながる事象は生まれなと思っています。また、頑張ったことを正當に評価してくれる友達や大人が周りにいてくれることが子どもたちの自己肯定感や自尊感情を高め、自分自身がより良く生きようとする礎となる心を育むことにもつながると考えます。教職員の人権意識を高めるとともにアンケートや相談活動の充実をさらに図り、子どもたちが安心して「夢に向かって、頑張ろう」と思える学校づくりに努めます。ご家庭・地域でもご心配なことがありましたら学校へご相談ください。よろしく申し上げます。



校長 松岡 信次
教職員 一同